

感染症科

● スタッフ（平成27年10月1日現在）

診療科長 水野 泰孝
医局長 中村 造

医師数 6名

● 診療科の特徴・特殊性

感染性疾患は細菌、ウイルス、寄生虫と原因となる微生物が幅広く、全身的な診断と管理、治療を要する疾患群である。当科では、感染症と診断がついた患者さんはもちろん、感染症の疑いがある症例、もしくは不明熱、白血球やCRP等の炎症反応高値等を含めた総合的な感染症診療を行っている。対象疾患は、近年増加しているHIV感染症、結核を含む非結核性抗酸菌症、椎体炎などの細菌感染症、梅毒・クラミジア・淋病などの性行為関連感染症、デング熱・腸チフスなどの渡航関連感染症、寄生虫疾患など、多数の症例の診療実績がある。

薬剤師やソーシャルワーカーなどとの多職種連携も積極的に実施し、多方面からの疾患管理を心掛けている。

● 診療体制と実績

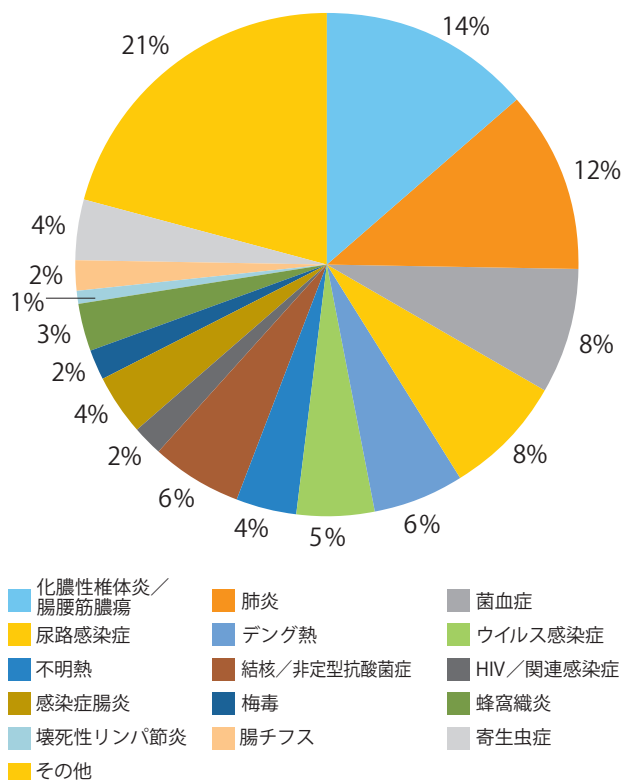
1) 外来診療体制と実績（図参照）

外来は感染症専門医3名を中心に、すべてのコマで外来を開設している。対応疾患はHIV感染症や抗酸菌感染症、性行為関連感染症、渡航関連感染症から不明熱などの診療も行っている。

2) 入院診療体制と実績（図参照）

入院患者は10階東病棟の陰圧室2床を含めた4床を中心として、複数のチームで診療に当たっている。主科以外のコンサルテーション症例や血液培養が陽性となるような重症感染症症例、集中治療部での治療症例など、併診症例も多数診療している。

H27 入院患者



H27 外来患者

